

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	映像1 (Design for the Moving Image 1)	授業コード	C167951
担当教員名	小島 康史	科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	それぞれが映像制作の手法を深めていく授業です。表現に関連するさまざまな授業をすでに履修していることが必要です。		
受講心得	娯楽作品ではなく主にドキュメンタリー作品を中心に、テレビ、ビデオ、DVD、映画などの身近な映像メディアや映像作品を視聴し、それぞれの作品に設定されている「テーマ」と「作家性」を考えながら見る習慣を付けてください。また、視聴を通して印象に残った構成やカメラアングルなどをメモしておきましょう。また、長い時間をかけて作品を制作します。ことにグループで制作する作品が中心なので欠席をしてグループのメンバーに迷惑をかけることのないようにしてください。		
教科書	必要に応じて資料を配布します。		
参考文献及び指定図書	映像編集の秘訣1 (協)日本映画・テレビ編集協会編 映像編集の秘訣2 (協)日本映画・テレビ編集協会編 分かりやすい文章の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 分かりやすい表現の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 分かりやすい説明の技術 藤沢晃治著 (講談社:ブルーバックス) 情報を見せる技術 中川佳子(光文社親書106) 一人でもできる映画の撮り方 西村雄一郎著 洋泉社		
関連科目	情報デザイン関連の科目、CG関連の科目、サウンド関連の科目、WEB関連の科目、映像2。		

授業の目的	<p>ビデオカメラやデジタルカメラ、スマートフォンの高機能化によって、だれでも手軽に動画制作ができるようになり、多くの人々が動画制作を楽しんでいます。しかし、ネット上に公開されている完成作品を見るかぎり作品の質にはバラツキが多く、残念ながらほとんどの作品は自己満足に終わっています。</p> <p>コンテンツ・クリエイターを目指す学生諸君が制作する映像は、それらの作品群とは異なり、あくまでもコミュニケーションツールです。つまり、「観客に被写体について感じさせる」という作用が求められています。</p> <p>本学の映像制作教育プログラムが諸君に求めているものは、映画やドキュメンタリーの核となる『人間を見つめる眼差し』を養成することです。どんな映像作品においても、基本的には人が主役であり、その人物をどのように描いていくか、映像制作者側の作家性が問われていきます。したがって、まず先入観を排除した多角的な調査(生い立ちや周辺からの人物像)からの情報を元に、テーマを選び出し、象徴的なエピソードを盛り込んだドラマを紡ぎださなければなりません。さらに諸君が制作する映像作品は、表現に芸術的なセンスが求められ、被写体に対する深い眼差しを持ち合わせなくてはなりません。</p>
授業の概要	<p>本科目では、その作家性を磨く演習としての位置付けから、写真と音声を活用し、『人間研空』をこの科目では、通常の映像作品同様、0からスタートして作品を完成させます。主題は大学周辺で取材が出来る人物を探し出し、取材の了承を取り付けます。対象人物(被写体)の優れている点や面白い点を主眼にした人間を研究するドキュメンタリー作品を制作することを目的とする。映像を写真に置き換えて、本人及び周辺取材を重ねたインタビュー音声素材を元に、18分程度の作品を制作する。まずは、企画探しを全員で行い、プレゼンテーションを行います。そこでのディスカッションを元に再調査を進め、優れた企画を通すことでグループが形成されます。教員は学生と常にディスカッションをし、作品を細部にわたって検討します。実際の制作を行うのは、学生のみなさんです。時には皆の力を借りながら、自らの頭で考えアイデアを出し、計画を立て、粘り強く制作してください。</p> <p>これまで学んできた映像制作に関する知識やスキルをフルに使って作品の完成を目指します。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週:</b> ガイダンス:2週目以降の実践的な授業の進め方を説明する。 実習の企画探しを行い、他のメンバーに対して企画の優位性についてまとめる。	これまでの映像関連講義・演習の資料を熟読する。
<b>第2週:</b> 企画書を作成します。	進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第3週:</b> 進行計画を作成します。	進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第4週:</b>	

この回から、映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第5週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第6週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第7週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第8週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第9週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第10週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第11週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第12週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第13週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第14週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第15週：</b> 映像作品の実制作(撮影、編集)を行います。 作品内容に関する教員とのミーティングを随時行います。		進行中の作品に関する調査・準備など。
<b>第16週：</b> 制作した映像作品の講評をします。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目		
備考		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①映像制作の手法を探る。 ②社会への関心を深め、表現することの意味を確かめる。
<b>【知識・理解】</b>	①映像制作の手法を探る。 ②映像で訴えるための表現力を探る。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	①映像で訴えるための表現力を高める。
<b>【思考・判断・創造】</b>	①企画意図を実現できる(想定した対象に、伝えるべき情報を伝えることができる)。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>	合計欄	100点
------------------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		50点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		40点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。			5点
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	